



学生たちの声援を受けパワー
マックスに挑戦する高校生

ピア・サポーターから授業内容などについて話を聞く参加者



好評！「充実の設備、きれいなキャンパス」

7、8月期計 高校生や保護者 約2千人来学

令和7（2025）年度の第2回オープンキャンパスが8月24日（日）に開催され、猛暑の中、994人の高校生や保護者が模擬実習や個別相談などに訪れました。

総合案内所で受け付けを済ませた参加者は、学科ごとの全体説明会場に直行。3会場とも7月期に続き満員となる盛況ぶりでした。キャンパス内では各学科専攻が工夫を凝らした模擬実習ブース、別科・専攻科・大学院等の説明や進学・奨学金・アパート等の相談、ピア・サポーターによる「先輩と話してみよう」コーナーなどが設けられ、高校生たちはお目当てのコーナーに足を運んで、体験や学生・教職員らとの語らい等を通じ、本学への理解を深めていました。

昨年に続き2度目の参加という慶誠高2年の男子生徒は、アリーナでパワーマックス（自転車エルゴメーター）を体験し「理学療法士を目指していますが、熊保は思った以上に設備がすごい」と、息を弾ませていました。また、小学生の頃から看護師を目指しているという第一高1年の女子生徒は「キャンパスがきれい」と気に入った様子。「設備、雰囲気、取れる資格、学びの内容を手掛かりに、これから時間をかけて進学先を決めたいと思います」と話していました。

本年度のオープンキャンパスには、7月期、8月期で計1983人が来学しました。（NL編集部）



ベッドから車椅子へ。学生の説明を聞きながら車椅子体験に臨む生徒たち



顕微鏡で血液細胞を観察する生徒たち

挑戦することの大切さ実感



「こども大学くまもと」 "開校、... 200人が受講

児童が学生になり大学の教室で各界の専門家から授業を受ける、「こども大学くまもと」が7月27日（日）、本学50周年記念館で「開校、され、小学生56人を含む約200人がふたつの講義を受けました。

「こども大学」はドイツに起源をもつ教育プロジェクトです。「こども大学くまもと」は、「こうのとりのゆりかご」を通じて出会った田尻由貴子さんと宮津航一さんが2023年に設立。県内大学で開催し続けており、第1回から本学の学生サークル「こどもの臨床研究会」が活動サポーターとして会場運営を手伝っています。

第4回の開校となる今回は、1限目に熊本市にあるオルタナティブスクールWING SCHOOLの田上善浩先生による授業があり、国語・算数・英語・理科・社会の各教科を先生オリジナルのスライドやクイズ、ワークを通して楽しく学びました。2限目は電撃性紫斑病により両下肢と両手の指を失いながらも、

義足でマラソンに挑戦し続けている横田ひさよさんが登壇し、自身の病気のことや挑戦することの大切さを語ってくれました。参加した子どもたちの生き生きとした表情がとても印象的で、保護者や活動サポーターにとっても大変有意義な時間となりました。（言語聴覚学専攻 永友真紀）



横田さん（中央）と記念撮影するこどもの臨床研究会メンバー

子どもの発達や感覚運動 鹿本高生3人を直接指導



本学を訪れ、益満准教授の説明を聞く鹿本高校の生徒たち

KSCへの高大接続研究支援

県立鹿本高校の2年生3人が8月22日（金）、益満美寿准教授（健康・スポーツ教育研究センター）を訪れ、年齢ごとの子どもの発達や感覚運動遊びについて学びました。

本学とKSC（熊本サイエンスコンソーシアム＝県立8高校）が締結した包括連携協定に基づく高大接続研究支援の一環。今回は、幼児教育の研究を行う生徒たちが、子ども（3～4歳）の成長や感覚運動遊びの種類と身につく力などを学び、最終的に作成するオリジナルの仕掛け絵本に生かそうというものです。

この日、生徒たちはトランポリンやボールプールなどの感覚運動遊びを実際に体験し、それぞれの遊びがもたらす気持ちの変化や効果を学びました。その後、益満准教授が、子どもには触覚などの五感に加え、前庭覚や固有受容覚など七感を持っていると説明すると、生徒たちは真剣な表情で聴き入っていました。（NL編集部）

週間行事予定（9月1日～9月8日）	
9/1（月）～8（月）	総合型選抜（リーダーシップ型）エントリー期間
9/4（木）	理学療法学専攻 卒業研究発表会
9/5（金）	修士学位論文中間発表
9/7（日）	チャレンジ熊保大！推薦選抜対策講座
9/8（月）	医学検査学科 卒業研究発表会